

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地				
伝統文化と環境福祉の専門学校		平成20年1月8日	本間 慎		〒952-1209 新潟県佐渡市千種丙202番地1 (電話) 0259-61-1122				
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地				
学校法人 新潟総合学院		平成7年3月24日	理事長 池田 祥 護		〒951-8065 新潟県新潟市中央区東掘通一番町494 (電話) 025-210-8565				
目的	専門分野における実務に関する知識、技術及び技能を教授し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成する。								
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士		
工業	専門課程		伝統建築学科		平成21年文部科学省告示第21号		-		
修業年限	昼夜	総授業時数	講義	演習	実習	実験	実技		
3年	昼間	3600	600	300	2700	0	0		
	夜間							単位時間	
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
60人		22人		1人		6人		7人	
学期制度	■全期: 4月1日～8月31日 ■後期: 9月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験、授業態度、出席状況、レポート				
長期休み	■学年始: 4月1日～4月3日 ■夏季: 8月10日～9月12日 ■冬季: 12月15日～1月10日 ■学年末: 3月1日～3月31日			卒業・進級条件	・出席数8割以上(授業科目、総時間に対して8割以上の出席) ・成績評価C以上				
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 個人面談、保護者会、カウンセリング(カウンセラー)			課外活動	■課外活動の種類 スポーツ大会、ボランティア ■サークル活動: 有				
就職等の状況	■主な就職先、業界等 建設業、社寺建設業等 ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100% ■その他 (平成 26 年度卒業者に関する平成27年5月1日時点の情報)			主な資格・検定等	建築大工技能検定 Word文書処理技能認定試験3級 Excel表計算処理技能認定試験3級				
中途退学の現状	■中途退学者 0名 平成26年4月1日 在学者 22名 平成27年3月31日 在学者 22名		■中退率 0% (平成26年4月1日 在学者を含む) (平成27年3月31日 卒業者を含む)						
	■中途退学の主な理由								
	■中退防止のための取組 個別面談、保護者会、カウンセリング								
ホームページ	URL: http://www.sado-nsg.com/								

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したもとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するため、特に、実践的実習・演習等において、当該企業等との密接な連携を通じ、より実践的な職業教育の質の確保に取り組む。卒業後の就業先で業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性や、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能などを十分に把握、分析した上で、当該専門課程の教育を施すにふさわしい授業科目の開設や授業方法の改善・工夫を行うなど、企業等の要請を十分にいかしつつ実践的かつ専門的な職業教育が主体的に実施する。

また、学生の就業先においても、現場で生きる力や幅広い環境分野に関わる知識を要求される動向があそのことから上記の体制を整えている。

この他にも、関連分野の動向については、教育課程編成委員会の他、関連学会、関連施設、NPO等へ選任教員が積極的に参加、連携することにより、教育課程編成委員会を超えた情報の獲得を行って(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年5月1日現在

名前	所属
金子 羊二	佐渡市世界遺産推進課 文化財室
川上 巧	有限会社川上工務店
本間 慎	伝統文化と環境福祉の専門学校
渡辺 秀則	伝統文化と環境福祉の専門学校
杉崎 善次	伝統文化と環境福祉の専門学校
後藤 唯	伝統文化と環境福祉の専門学校

(開催日時)

第1回 平成27年12月18日 17:30~18:15

第2回 平成28年 3月16日 17:30~(予定)

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

伝統建築に関わる技術と基礎となる建築設計について、地域で活躍する組織・人材を選定している。

「実習・演習等」では、建築計画、大工技術に加え、伝統建築の補修等を行える人材育成を図っている。

科目名	科目概要	連携企業等
建築実技Ⅱ	日本の伝統建築(巧の技)を基本から学び、将来、社寺建築の修復に携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。	有限会社 小浜組
建築実技Ⅳ	日本の伝統建築(巧の技)を基本から学び、将来、社寺建築の修復に携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。伝統建築(社寺建築)の応用。小規模な実物を作る。実物の工事に携わることによって、より実践を学び、卒業後に生かされる	有限会社 小浜組
建築設計実習Ⅱ	集合住宅とは、を計画の授業から学び、その理解のもとで具体的に建築物として一定の規模を想定して考え、図面で表現してみる。	有限会社 本次建設
建築設計実習Ⅱ	集合住宅とは、を計画の授業から学び、その理解のもとで具体的に建築物として一定の規模を想定して考え、図面で表現してみる。	有限会社 本次建設

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するため、特に、実践的実習・演習等において、当該企業等との密接な連携を通じ、より実践的な職業教育の質の確保に取り組む。卒業後の就業先で業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性や、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能などを十分に把握、分析した上で、当該専門課程の教育を施すにふさわしい授業科目の開設や授業方法の改善・工夫を行うなど、企業等の要請を十分にいかしつつ実践的かつ専門的な職業教育が主体的に実施する。

また、学生の就業先においても、現場で生きる力や幅広い環境分野に関わる知識を要求される動向があそのことから上記の体制を整えている。

この他にも、関連分野の動向については、教育課程編成委員会の他、関連学会、関連施設、NPO等

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年5月1日現在

名 前	所 属
金子 羊二	佐渡市世界遺産推進課 文化財室
川上 巧	有限会社川上工務店
本間 慎	伝統文化と環境福祉の専門学校
渡辺 秀則	伝統文化と環境福祉の専門学校
杉崎 善次	伝統文化と環境福祉の専門学校
後藤 唯	伝統文化と環境福祉の専門学校

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL:<http://www.sado-nsg.com/disclosure.html>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.sado-nsg.com/>

授業科目等の概要

(工業専門課程伝統建築学科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			建築環境工学	建築物を取り巻く外部環境としての自然気象や都市気候について、また人体の生理にかかわる室内環境について学び、建築と人間の健康を考える。	1・前	30		○			○		○		
○			建築法規	建築物を使用・利用する人の生命と健康等を守るための規定を学ぶ。	1・通	60		○			○		○		
○			建築法規	建築物を使用・利用する人の生命と健康等を守るための単体規定と集団規定とがあり基礎を学ぶ。	2・前	30		○			○		○		
○			建築史	建築の歴史的変貌の大きな流れを的確に把握し、現代の建築に活かせるよう学ぶ。	3・前	30		○			○		○		
○			建築計画Ⅰ (住宅)	(建築物) その中に暮らす人間が安心して生活ができるためには、生活そのものへの追及と機能を重視した基本的な面と造形的な美を追求する面とを結び合わ学ぶ。	1・前	30		○			○		○		
○			建築計画Ⅱ (公共施設)	(建築物) その中に暮らす人間が安心して生活ができるためには、生活そのものへの追及と機能を重視した基本的な面と造形的な美を追求する面とを結び合わ学ぶ。	2・前	30		○			○		○		
○			建築計画Ⅲ (都市計画)	(建築物) その中に暮らす人間が安心して生活ができるためには、生活そのものへの追及と機能を重視した基本的な面と造形的な美を追求する面とを結び合わ学ぶ。	3・前	30		○			○		○		
○			建築設備論	給排水、衛生、空調、電気設備など建築物を維持管理するために必要な諸要素及び、人間の活動に必要な各設備における具体的な事項を学ぶ。	2・通	60		○			○		○		
○			建築構造Ⅰ (木構造)	建築物の各部分と全体が、どのような材料を用いて、どのように形づくられているか、を学ぶ。	1・前	30		○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程伝統建築学科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			建築構造Ⅱ (RC構造・S構造)	建築物の各部分と全体が、どのような材料を用いて、どのように形づくられているか、を学ぶ。	1・後	30		○			○		○		
○			構造力学Ⅰ (鉛直・水平)	「力の三要素」基礎を学び、さらに力の種類①移動させる力、②回転させる力、③力のモーメントを学ぶ。	1・後	30		○			○			○	
○			構造力学Ⅱ (モーメント)	「力の三要素」基礎を学び、さらに力の種類①移動させる力、②回転させる力、③力のモーメントを学ぶ。	2・前	30		○			○			○	
○			建築施工Ⅰ (施工計画)	施工者が正確で迅速かつ安全に、さらにローコストにおいて最低限の実践的な理解を目指す。	1・前	30		○			○			○	
○			建築施工Ⅱ (工事別施工)	施工者が正確で迅速かつ安全に、さらにローコストにおいて最低限の実践的な理解を目指す。	1・前	30		○			○			○	
○			建築積算	設計図を正確に読み取る知識、それを正しく計算できる知識、など様々な角度から演習を繰り返す力をつける。	2・前	30		○			○			○	
○			建築仕様Ⅰ (共通仕様・特記)	建築に関係する材料の様々な性質を学ぶ。	1・前	30		○			○			○	
○			建築仕様Ⅱ (各一般仕様・木工仕様)	建築に関係する材料の様々な性質を学ぶ。	1・後	30		○			○			○	
○			建築製図Ⅰ (木造住宅)	設計図は、建築のコミュニケーションの重要な手段である。よって内容や情報を正確に伝えることを図面の表現として学ぶ。	1・前	60				○	○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程伝統建築学科) 平成27年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			建築設計Ⅰ (木造住宅在来工法)	建築の知識を建物として「考えた物を図面として表現する」まとめあげるための手段である。したがって参考図を読み取る力、表現できる力を学ぶ、	1・前	120			○	○		○		
○			建築設計実習Ⅰ	前期で学んだ内容でさらに構造の仕組みを具体化し、軸組模型を作成することにより学ぶ。	1・前	60			○	○		○		
○			建築設計実習Ⅱ	集合住宅とは計画の授業から学び、その理解のもとで具体的に建築物として一定の規模を想定して考え、図面で表現してみる。	1・通	120			○	○			○	○
○			建築設計実習Ⅱ	集合住宅とは計画の授業から学び、その理解のもとで具体的に建築物として一定の規模を想定して考え、図面で表現してみる。	2・通	150			○	○			○	○
○			建築設計実習Ⅲ	集合住宅とは計画の授業から学び、その理解のもとで具体的に建築物として一定の規模を想定して考え、図面で表現してみる。	2・後	90			○	○			○	
○			建築設計実習Ⅳ	公共建築物の理解を深めるとともに、一定の規模を想定し、考えをまとめて表現してみる。	3・通	120			○	○		○		
○			規矩術(伝統建築特殊技法)	日本の伝統建築(巧の技)を基本から学び、将来、社寺建築の修復に携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。	2・後	90			○	○			○	
○			建築造形演習	建築物を完成する前に表現する方法は立体表現が欠かせない。イメージしたことが相手にわかりやすく伝える方法を学ぶ。	2・後	30			○	○		○		
○			建築CAD設計	コンピュータを使つての建築設計の表現技術を学ぶ。	3・前	60			○	○			○	
合計				科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程伝統建築学科) 平成27年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネスマナー	これからの社会人としての姿勢を学ぶ。	1・前	30	○			○		○		
○			建築実技Ⅰ (工具技術・仕口工作・加工)	日本の伝統建築(巧の技)を基本から学び、将来、社寺建築の修復に携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。	1・前	240				○	○			○
○			建築実技Ⅱ (工具技術・仕口工作・加工)	日本の伝統建築(巧の技)を基本から学び、将来、社寺建築の修復に携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。	1・後	240				○	○			○
○			建築実技Ⅱ (工具技術・仕口工作・加工)	日本の伝統建築(巧の技)を基本から学び、将来、社寺建築の修復に携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。	2・前	360				○	○			○
○			建築実技Ⅲ (民家・社寺修復)	日本の伝統建築(巧の技)を基本から学び、将来、社寺建築の修復に携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。	2・後	240				○	○			○
○			建築実技Ⅳ (民家・社寺修復)	伝統建築(社寺建築)の応用。小規模な実物を作る。又は、修復工事に携わることによって、より実践を学び、卒業後に生かされることを学ぶ。	3・前	360				○		○		○
○			卒業制作	今まで学んだことを基に製作する。	3・後	540				○	○			○
○			コンピューター演習Ⅰ	建築だけでなく、現代社会の基本のパソコン技術を学ぶ。	2・後	60			○		○			○
○			コンピューター演習Ⅱ	建築だけでなく、現代社会の基本のパソコン技術を学ぶ。	3・前	60			○		○			○
合計			36 科目		3600単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学科80%以上出席、成績評価がすべてC以上	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。